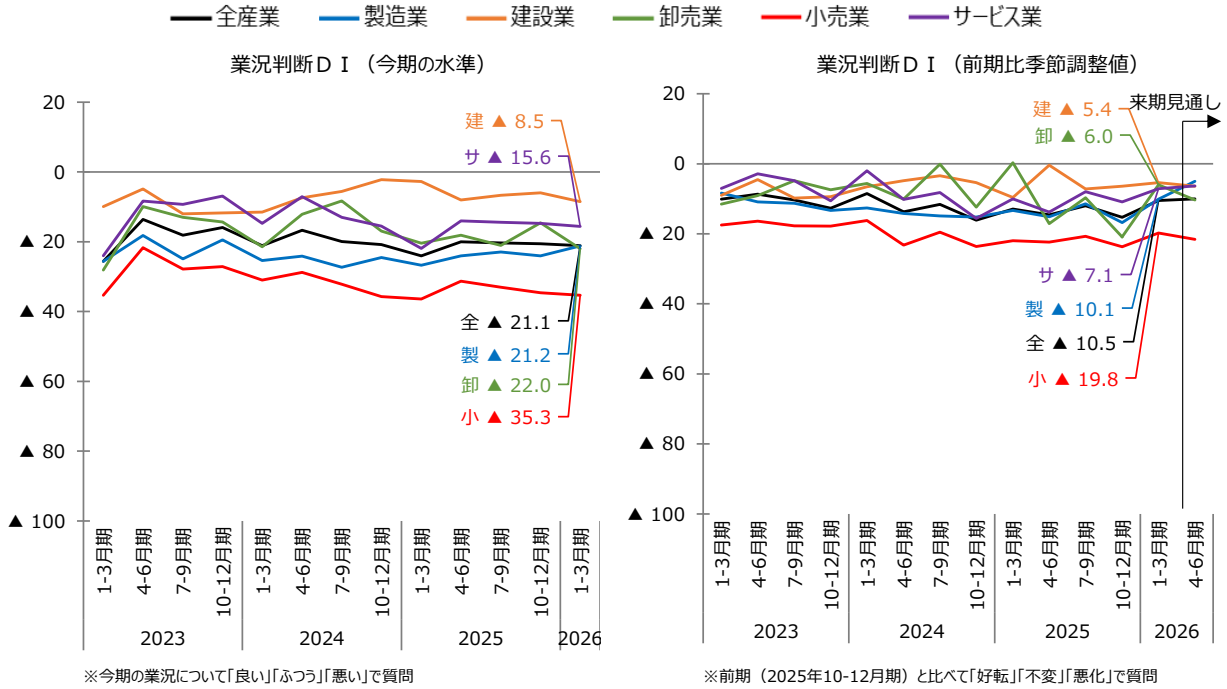


第183回 中小企業景況調査（2026年1-3月期） 九州・沖縄



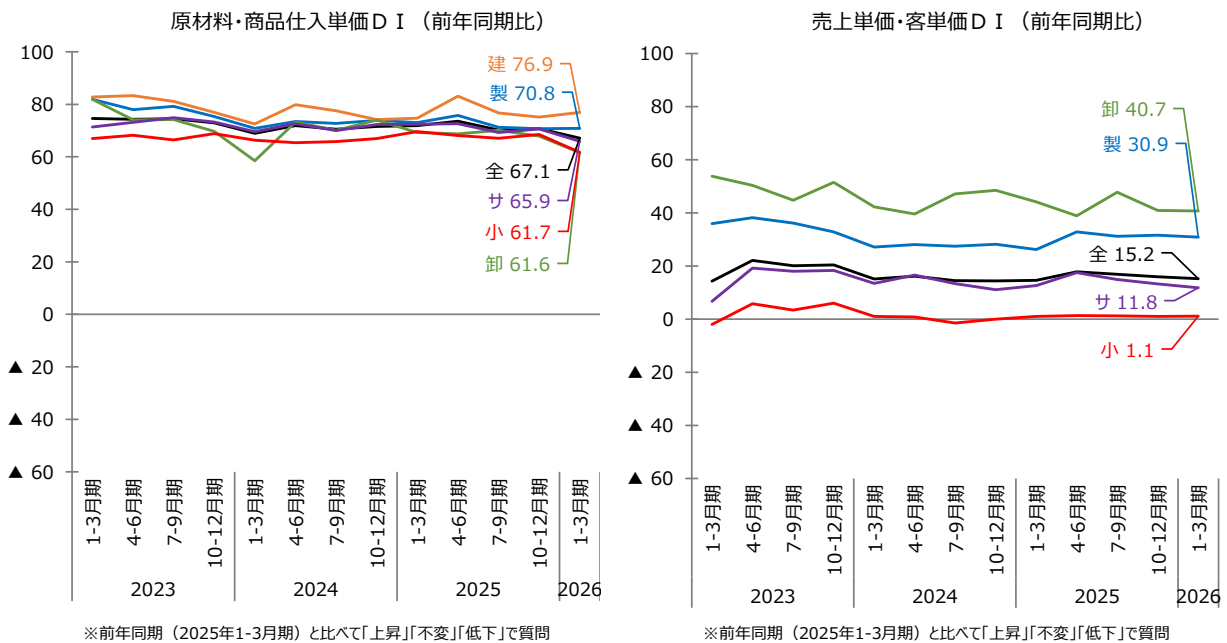
1. 業況感

九州・沖縄地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2025年10-12月期）より0.5ポイント減の▲21.1と3期連続して低下した。産業別にみると、製造業で上昇し、卸売業、建設業、サービス業、小売業で低下した。



2. 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より3.6ポイント減の67.1と2期ぶりに低下した。産業別にみると、建設業、製造業で上昇し、小売業、卸売業、サービス業で低下した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より0.7ポイント減の15.2と3期連続して低下した。産業別にみると、小売業で上昇し、サービス業、製造業、卸売業で低下した。



＜調査概要＞ 調査時点は2026年3月1日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業
 今期の調査対象企業数：18,825 有効回答企業数：17,895 有効回答率：95.1% うち、九州・沖縄：2,777企業

※本資料の集計対象の都道府県は、福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県です。

第183回 中小企業景況調査（2026年1-3月期） 九州・沖縄

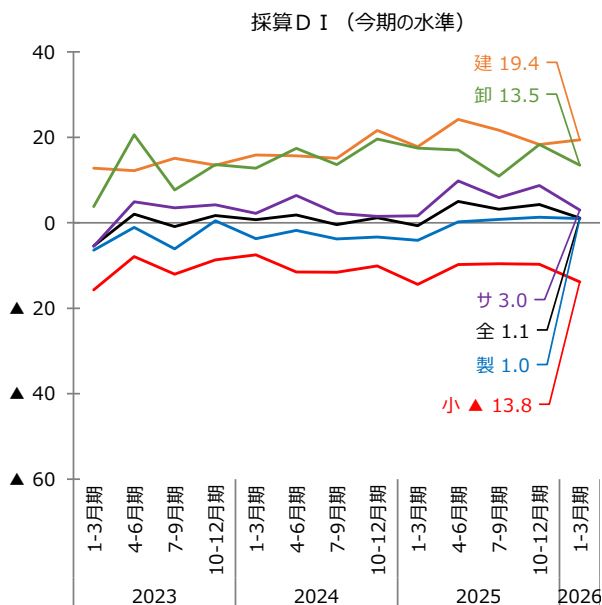


3. 採算

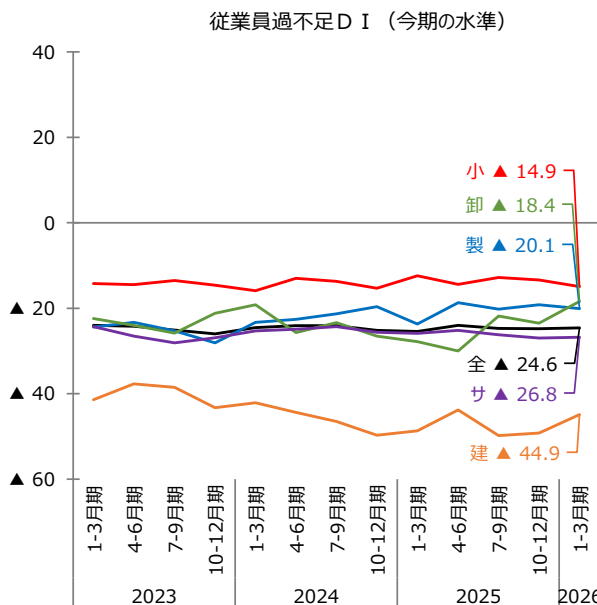
採算DIは、全産業で前期より3.2ポイント減の1.1と2期ぶりに低下した。産業別にみると、建設業で上昇し、サービス業、卸売業、小売業、製造業で低下した。

4. 従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で前期より0.2ポイント増の▲24.6と3期ぶりに上昇した。産業別にみると、卸売業、建設業、サービス業で上昇し、小売業、製造業で低下した。



※今期の採算について「黒字」「収支トントン」「赤字」で質問



※今期の従業員について「過剰」「適正」「不足」で質問

5. 九州・沖縄の中小企業の声

業況判断の背景		業種
現状	船価高騰する中船舶需要は、一定水準を維持しており2～3年程度の受注残はある。新規採用による従業員確保が困難となっており、既存従業員の高齢化で生産性低下、事業の継続性すら危ぶまれる。	製造業 船舶製造・修理業
	建設業自体、案件は増えているが、利益はトントン。特に当地区は公共が極端に少ないため民間のみでは利益確保は困難である。さらにコロナ融資の返済により、長期事業資金の調達に困難なため資金繰りが厳しい状況。	建設業 (木造建築工事業を除く)
	前年度が夏場の高温障害で冬野菜の出荷が相当減少した。今年度は比較的早く寒くなり冬野菜の出荷が順調にあり、資材の動きもやや上向き。	卸売業 紙製品卸売業
	抹茶ブームにより仕入価格が急騰、生産者と海外のバイヤーが直でつながり、既存の商流が激変することに危機を感じている。	小売業 茶類小売業
	スーパーや道の駅の売上が少しづつではあるが伸びている。また、別の事業の売上があるので、そちらでカバーできればと思っている。	サービス業 他に分類されない飲食店
見通し	前期より売上数量は増加したが、工事案件は多くないため、来期の需要も今期並みと見込んでいる。しかし、価格改定と物価高により売上と原価は増加する見込み。	製造業 生コンクリート製造業
	引合いはあるものの、受注につながる割合が落ちている。また、今後は、利益率が低下すると懸念している。	建設業 (木造建築工事業を除く)
	需要の停滞と冬物の売上の落ち込みが1～3月の資金繰りを圧迫した。4～6月の売上見込みは目途がついている。新規のお客様への提案で昨年以上の売上を達成することが目標となっている。	卸売業 婦人・子供服卸売業
	ガソリンスタンド業において、人材の定着と育成が難しいと感じている。一枚岩になりきれていない状況で、各種原価や経費の高騰に先行き不安を感じる。	小売業 ガソリンスタンド
	シーズ的に売上が多くなる。キッチンカー2台で別々のイベント出店が可能となり、好転する見込み。	サービス業 ハンバーガー店

※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)